

国立保健医療科学院第2回研究倫理審査委員会議事要旨

1. 日 時 平成21年9月9日(水) 10:00~13:20

2. 場 所 国立保健医療科学院 特別会議室(4階)

3. 出席者 [委員] 人文社会科学及び倫理・法律分野の有識者 小林委員
市民の立場 浦郷委員
本院職員 緒方委員長
" 牛山副委員長
" 今井委員
" 土井委員
" 横山委員
" 笠島委員
" 筒井委員
" 大澤委員

計10名

4. 議 題

- (1) 申請事案審議
- (2) その他

5. 議事要旨

(1) 申請事案

①申請者：地域保健福祉分野 研修生 草深 明子
議題名：東京都の社会経済的困難層における結核治療継続困難要因の検討

②申請者：地域保健福祉分野 研修生 彦根 倫子(合同臨地訓練代表)
議題名：多摩立川保健所管内における職域の健康行動の実態調査

- ① 申請者2名より申請案についての説明があった。
- ② 委員長及び各委員より申請案について質疑応答が行われた。
- ③ 審議の結果、条件付承認を前提に研究計画の再提出となった。(以下のコメントに対して研究計画等を修正した文章を提出してもらい、それを各委員が再審査。)

①申請者：地域保健福祉分野 研修生 草深 明子

- 1. 東京都の倫理審査委員会の条件をクリアした条件の内容が、何が満たされたので条件をクリアしたかというところをくわしく説明すること。
- 2. 研究データ収集方法の結核治療者へのインタビュアーの名前、連絡先等を含めた名簿を作成すること。
- 3. 結核患者支援を行っているNPOに依頼して対象者を選ぶといったプロセスがあったが、そのプロセスを明確にしてもらうこと。
- 4. インタビュアーが複数いる可能性もあるので、事前の打ち合わせを行うこと。しかもその内容を明記し、記録すること。
- 5. インタビュアーが結核に感染する可能性もあるので、万が一の場合の対応策をはっきり明記すること。

6. インタビュー対象者の主治医との連携し、必ず主治医の同意又は了解を得ること。
7. インタビュアーにどれだけ専門知識があるか又、職種等も何かもくわしく調べること。
8. 共同研究者でかつ、インタビュアーでもある結核研究所の方の調査マニュアルがあるようならばそれもつけ加えること。
9. 研究予定期間は、研究計画書の平成 22 年 1 月から平成 22 年 3 月とすること。
10. データ、資料の保存に関して、ロッカー等誰の責任で、いつまでどこに保存するのかという事を具体的かつ明確に確定し、明記をすること。
11. 録音内容は消去後、内容に移し変えるとの事だが(IC チップ及び紙)データ管理方法をはっきり明記すること。
12. インタビューでの情報漏洩は、個人情報保護条例(東京都)に従って予防するということなので、その条例の中身を明記すること。

②申請者：地域保健福祉分野 研修生 彦根 倫子(合同臨地訓練代表)

1. 質問の中から体を直接さわる可能性がある腹囲測定を削除すること。
2. 国立保健医療科学院がこの調査をやっていますとのような記述ではなく、長期課程の研修生の訓練及び学習の一環としてのアンケートですと明記すること。
3. 事業主用のアンケートで、次の調査にも御協力くださいという趣旨のことを入れてもらうということ。

その他いろいろあるが、それは内部の委員にて話しあうことにするので、今回の研究倫理審査委員会はこれをもって閉会とする。

(2) その他

平成 21 年度定例会開催予定の報告があった。

以上

(照会先)

国立保健医療科学院総務部総務課 山中、小池
電話 048-458-6111
(内線) 2413、2414